

# 〈施策評価〉

目標8 文化を育み継承し、スポーツに親しむことのできるまち

資料 1-6

## 施策28 次世代への歴史・文化の継承

<p>施策目標 (令和12年度の姿)</p>	<p>○伝統的な歴史や文化が継承され、区民が地域に対する魅力に誇りを持ち、郷土愛が一層育まれています。 ○区民の愛郷心が醸成されるとともに、文化都市としてのイメージが根付き、区内外に定着しています。</p>
----------------------------	---

		令和5年度目標	令和5年度実績	目標値(令和12年度)
成果指標	歴史や文化などが、まちに根付いていると思う区民の割合	6.0%	4.5%	15.0%
	郷土博物館の観覧者数	31,000人	31,007人	38,000人

### 【所管による自己評価】

<p>施策の成果</p>	<p>区民が歴史・文化に親しむ機会として、郷土博物館本館では、杉並の地域に根差した題材でありながらも区の内外にアピールできる魅力ある特別展や企画展を実施するほか、これまで非公開となっていた区指定文化財のレプリカを製作し、常設展示を実現しました。分館においても区民参加型展示を実施するだけでなく、関連するパネル展示を永福図書館で出前型展示として実施しました。また、区民、児童・生徒の学びの場となるよう、古文書講座や親子博物館教室等を実施しました。これにより、年間を通じた観覧者数は、目標値を上回る31,007人となりました。</p> <p>区内所在の文化財については、表示板等の建て替えのほか、それらを活用したクイズラリーを実施し、文化財の周知及び区民が区内所在の文化財に親しむ機会の充実を図りました。このほか、令和6年度の「荻外荘」の一般公開に向けて、関係資料の調査を陽明文庫と共同で実施しました。</p>
<p>改善・見直しの方向 (中長期)</p>	<p>今後の施策の方向</p> <p style="text-align: center;">○ 拡充      ○ サービス増      ● 現状維持      ○ 効率化      ○ 縮小・統廃合</p>
	<p>今後の進め方</p> <p>杉並の地域に根差した歴史や文化を次世代に継承していくためには、歴史的・文化的資料の保存と活用を図りつつ、区民がこれらに親しむことができる場や機会を充実させるとともに、杉並の歴史・文化を区内外に発信し、区民の愛郷心を一層醸成していくことが重要です。今後も、郷土博物館において区内外にアピールできる魅力ある特別展・企画展の実施や、世代を超えた区民の学びの場として古文書講座や親子博物館教室等を開催するほか、埋蔵文化財調査により出土した資料や区指定文化財等の公開など、区民が歴史・文化に親しむ機会を様々な形で提供していきます。また、令和6年12月から復原・整備を終えた荻外荘の一般公開が開始となりますが、引き続き陽明文庫と荻外荘関係資料の共同調査を進め、その成果を展示等に活かしていきます。</p> <p>このほか、区が保有する歴史的・文化的資料を広く周知するため、資料のデジタルアーカイブ化の検討を進めます。</p>

## 【外部評価】

<p>施策内容への評価</p>	<p>文化財の保護・収蔵スペースの確保とそれらの開示・情報発信の2つが施策であると理解します。この施策は、施設増強等を図るのではなく、情報技術の活用により、効果的に実施していくことと理解します。ここに挙げている成果指標は開示・情報発信の観点だけなので、文化財の保護・収蔵スペースの確保についての成果指標が必要と考えます。重要な資料等のアーカイブ化、貯蔵場所の整備、文化財のレプリカ作成等の進捗状況が成果指標に必要と考えます。歴史や文化などが、まちに根付いていると思う区民の割合は、成果指標としては、定性的・主観的でありすぎて理解しにくいと思います。郷土博物館の観覧者数は、30,000人程度が適正と考えるならば、このような単独の成果指標よりもYouTubeのような媒体を含めた「視聴率」を挙げる方がいいと考えます。</p>
<p>今後の施策の方向 (中長期)</p>	<p>○ 拡充      ○ サービス増      ○ 現状維持      ● 効率化      ○ 縮小・統廃合</p>
<p>評価表の記入方法 などについての評価</p>	<p>指標は、施策/事務事業を評価するには、視点がちよつと違うような気がします。次のコラムに記載したような視点から、指標を作成する方が、より施策の実行状況をアピールできると思います。</p>
<p>施策を構成する事務 事業についての意見</p>	<p>実際に郷土資料館本館・分館の来客者数を増やそうという積極的意図はなく、現状施設のままで区の内外に情報発信していくというのが、施策と考えるので、開示の観点からYouTube等の媒体からの視聴率を成果指標に取り上げた方がいいと思います。企画数・頻度は、視聴率を上げるためなので、敢えて取り上げる指標ではないと思います。また、文化財保護の施策の実行状況、すなわち、資料のアーカイブ化、文化財のレプリカ作成、図書館と史料館とのデータ検索の共有化等各種システム化状況をアピールする指標が必要と考えます。</p>

## 【外部評価に対する所管の対処方針】

<p>対処方針</p>	<p>収蔵資料を活用して杉並らしい魅力ある展示を開催するためには、文化財の保護・収蔵スペースの確保は重要です。一方、文化財の収蔵スペースとして確保できる区の施設には限界があることや、区立施設マネジメント計画を踏まえて整備する必要があることから、指標に設定することは困難な状況にあります。</p> <p>「資料のアーカイブ化」は、現在実施しておらず、今後実施していく予定です。資料のアーカイブ化に当たっては、その進捗を成果指標として設定することが可能か検討してまいります。</p> <p>YouTube等の媒体からの視聴数については、令和6年度からの総合計画において「文化財等を活用したオンライン動画等の視聴回数」として成果指標に設定しています。指標の目標値達成に向けて、区の歴史・文化情報発信の充実及び文化財の保護・活用を推進するため、歴史的資料のデジタルアーカイブ化の実施を進めます。</p> <p>また、区民が歴史・文化に親しむことができる機会や場の充実を図るため、郷土博物館の来館者数等を引き続き成果指標に設定し、目標値達成に向けた取組を進めます。</p>
-------------	---